



全国技能グランプリを制した石工職人

高須 保雄 さん

PROFILE

たかす・やすお（42：本町）
高校卒業後、岡崎市での修行期間中に技能五輪全国大会へ出場し優勝したほか、世界大会でも入賞した経歴を持つ。現在、市内で実兄と榊高須石材を営む。

石工職人の頂点へ

皮が厚く、ボコボコした手の平。職人の手。

「職人の技術が評価される技能グランプリで優勝し、誰からも認められる真の日本一になりたかったんです」。

3月5日から千葉県にある幕張メッセで「第26回技能グランプリ」が開催された。同大会は、各県の予選を勝ち抜いた熟練技能者が「技能日本一」を競う。言い換えれば、その道のトップを決める大会だ。同大会で高須保雄さんが、石工部門で見事、優勝した。

競技は2日間にわたる長丁場。卓越した技術力に強靱な体力が伴っていないと、頂点に立つことはできない。高須さんは、制限時間10時間以内に、50種類以上の工具を使って、手作業で課題の石柱を作り上げた。

栄光の裏側

「21歳のとき、23歳以下の青年技能者対象の技能五輪に出場しました。全国優勝したんですが、正直なところ、日

本一の実感が湧かなかったんです。年齢制限がない技能グランプリで優勝すれば、真の日本一になれる。自分の技術がどの程度なのかも把握できる。勝負してみようと決意しました」と出場のきっかけを話す高須さん。その言葉に、穏やかな表情からは想像できない闘志を内に秘め、物言わぬ石と、日々、格闘してきた職人の貪欲な一面を垣間見た。

信頼に応えるため

「大会を振り返ると、腕に自信のある職人たちが日本一を競う場に参加したことで、技術的にも人間的にも成長できたと実感しています。私の仕事は施主様からの依頼を受けて成り立ちます。だからこそ絶対、間違いは許されたいし、思いや理想に応えなければならぬんです。安心して仕事を任せてもらえるよう、これからも努力していきます」と今後の抱負を話した。